

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：23702

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23660107

研究課題名(和文)精神科長期入院患者の退院支援における患者-家族-多専門職連携モデルの開発

研究課題名(英文)Development of a patient-family-professional collaboration model to support discharge for psychiatric long-term inpatients

研究代表者

石川 かおり (ISHIKAWA, KAORI)

岐阜県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：50282463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円、(間接経費) 540,000円

研究成果の概要(和文)：本研究で開発した退院支援モデルは3本柱で構成される。患者との連携は、「患者の意思の確認・尊重」「退院支援の宣言と共に取り組む姿勢」「新しい可能性の探求」等、家族との連携は、「家族との関係構築」「家族の意思の確認・尊重」「家族の力量と可能な協力の査定」等、専門職間の連携は、連携遂行のコア要素(理念の共有、自律性と相互補完など)、障壁・困難を低減する要素(「支援上の停滞・困難への対応、コミュニケーションスキル等)、連携風土の構築の要素(管理職者による支援、IPE等)を含む。このモデルを看護師が臨床で活用することにより、長期入院患者の地域生活移行を推進する一助となることが期待できる。

研究成果の概要(英文)：The discharge support model developed through this study was consisted of three elements. The first point, cooperation with patient contained confirmation and respect for patient's mind and hope, declaration for discharge support, working on the problem together, exploring new possibility, etc. The second, cooperation with family contained constructing family-nurse relationship, confirmation and respect for family's mind and hope, assessment family ability and possible care, etc. The last point, inter professional work contained core elements of accomplishment IPW, elements of reduce discharge barrier, elements of creating the climate and culture for IPW, etc. Through applying the model in clinical practice, it is hoped community care for long term inpatients will be promoted.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：精神看護 長期入院患者 退院支援 専門職連携 家族

## 1. 研究開始当初の背景

現在、わが国の精神医療においては退院促進が主たる課題の一つであり、新規入院患者の入院期間の短期化がすすんでいるが、一方で、1年以上の長期入院患者の動態には大きな変化はみられない。入院期間の短縮と脱施設化を成し遂げている欧米先進国と比較すると、長期入院患者数や入院期間の差は余りにも大きい。長期入院患者の退院支援は日本に特化した難題といっても過言ではなく、看護においても未だ重要課題である。特に、退院支援においては患者・家族とのパートナーシップと多職種連携が欠かせないが、研究代表者による先行研究においては、長期入院患者に対する看護師の退院支援上の困難として、患者や家族の抵抗、看護師チームや医師の抵抗、関係者との意見の相違・対立等により退院調整が阻害される実態が示された(石川ら, 2010)。また、退院促進支援事業に関する調査(中添ら, 2007)では、支援者の認識の差、チーム内協働の難しさなど連携上の問題が浮上している。これらの問題に影響する要因として、組織の連結程度、専門職間の権力格差、ジェンダー格差、専門職間の価値や行動の違い、連携に関する知識の欠如といった連携上の障壁(松岡, 2000)の存在が示唆されるが、こと精神科病棟においては、閉鎖的な空間、かつての收容主義、病棟内のヒエラルキー、看護体制の限界等、日本の精神医療現場に残存する特有の要因がそれらの障壁に色濃く影響していると思われる。このような患者を取り巻く関係者間で生じる意見の対立、齟齬といった信念対立は、現代医療の核心的課題である「考え方」の矛盾対立(京極, 2008)に通底する問題であり、精神看護・医療の質に関わる課題である。しかし現在のところ、精神科長期入院患者の退院支援に関連して生じる様々な信念対立に着目し記述した研究はなく、それらを低減・解消し効果的に連携するための具体的な方法については検討されていない。また、学際的なチームケアなど海外で活用されている連携・協働モデルも紹介されているが、それらが日本の現場になかなか浸透しないのは、精神医療のあり方が日本と異なるためではないかと推測する。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、精神科長期入院患者の退院支援における様々な信念対立の構造を明らかにし、その信念対立を低減・解消することに焦点を当て、退院支援を行う看護師が、患者、家族、多専門職種と効果的に連携するためのモデルを構築することである。

## 3. 研究の方法

### (1)平成 23 (2011) 年度

患者・家族・専門職連携に関する既存の知見を収集し、現状と課題を明らかにすることを目的として、精神科、退院支援、連携、協

働、チーム医療、家族支援等をキーワードに国内文献の検討を行った。

また、精神科長期入院患者の退院を巡る信念対立の構造を明らかにすることを目的として、民間の単科精神科病院 4 施設にて長期入院患者の看護を実践している看護師 12 名を対象とした聞き取り調査を実施した。データはインタビューガイドを用いた半構成的面接により収集した。許可を得て録音し(インタビューの総時間は 10 時間 44 分)、逐語録を作成し、質的内容分析を行った。

### (2)平成 24 (2012) 年度

精神科長期入院患者の退院支援における連携のグッドプラクティスを明らかにする目的で、国内で先駆的な実践活動を行っている 2 ヶ所でインタビュー調査を行った。A フィールドでは、精神科病院看護部長 1 名、地域相談支援専門員 1 名、精神保健福祉士 1 名、退院調整看護師 2 名、受け持ち看護師 1 名、デイケア看護師 1 名、作業療法士 1 名の計 8 名を対象とした。B フィールドでは、精神科病院院長 1 名、看護部長 1 名、外来看護師 2 名、精神科病院保健師 1 名、病棟看護部長 1 名、グループホーム精神保健福祉士 1 名、地域活動支援センター精神保健福祉士 1 名、小規模多機能型居宅介護事業所管理者 1 名、デイサービスセンター管理者 2 名、デイサービスセンター生活相談員 1 名、NPO 法人理事 2 名の計 14 名を対象とした。データはインタビューガイドを用いた半構成的面接により収集した。許可を得てメモをとり、逐語録を作成し、質的内容分析を行った。(分析は平成 25 年度まで継続)

また、国外の精神科領域における地域生活支援の実践から連携・協働の有用な方法論と課題を明らかにすることを目的として、米国の The Village Integrates Services Agency を視察し、情報収集を行った。

### (3)平成 25 (2013) 年度

平成 24 年度に収集したデータの整理と分析を行った後、全ての調査結果を比較検討し、精神科長期入院患者の退院支援を行う看護師が、患者、家族、多専門職種と効果的に連携するためのモデル案を検討した。病棟で退院支援を実践する看護師向けのリーフレットを作成するために、連携研究者間で内容を精練した。

## 4. 研究成果

### (1)平成 23 (2011) 年度

文献検討により精神科退院支援における連携、協働に関わる知見を整理し、インタビューガイドに反映させた。また、家族支援に関連する文献検討では、5 年以上入院が継続している長期入院患者の家族を対象とした研究、家族のストレングスに焦点を当てた研究、医療と福祉が連携した多専門職との協働に関する研究の充実や積み重ねが今後の課

題として挙がった。

聞き取り調査の結果、看護師は退院支援を進める際の専門職連携において、「専門職間の不明瞭な役割分担」「非効果的なコミュニケーション」「専門職間の日程調整の煩雑さ」から「看護師間の情報共有・協力の不足」「専門職間の情報共有・協力の不足」を体験していた。そして、「退院支援をめぐる様々な信念対立」に遭遇し、「信念対立のなかでの孤立感と諦観」から「退院支援へのモチベーションの停滞」が生じていた。このような退院支援における専門職連携のネガティブなプロセスには、「退院支援に対する組織の消極性」「専門職間のヒエラルキー」「看護師の力量不足」が影響していた。

他方、「他専門職の役割を意識した関わり」「病棟内ヒエラルキーを往なすコミュニケーション」「効率的な事前の調整・準備」「信念対立を解消する試み」「自分に内在する壁を打開」「病棟内の建設的な雰囲気作り」といった、現状の困難を解消しようとする看護師の試みにより、多専門職カンファレンスが徐々に定着したり、他専門職の視点や考えを知って支援に活用したりするなど、「専門職連携の萌芽」を実感している状況も示された。

#### (2)平成 24 (2012) 年度

長期入院患者の退院支援に関するインタビュー調査から、効果的な専門職連携の要素として、チームで共有される理念、チームの構造、メンバーの自律性と相互補完、フォーマルな会議、インフォーマルな小ミーティング、支援上の停滞・困難への対応、チームのコミュニケーション、チーム内の相互作用、管理者による支援、スタッフの専門職連携教育、日常的な協働と交流、地域での専門職連携の長期的な積み重ね、の 12 点が明らかとなった。

また、米国 The Village Integrates Services Agency では、カリフォルニア州とロサンゼルス郡における精神医療福祉の概要、「personal service coordinator」「life coach」「地域統合スペシャリスト」と呼ばれる各スタッフの役割とスタッフ間の連携、ピアサポーターの活動、プログラムの成果と評価、スタッフ間およびスタッフ・利用者間の倫理的ジレンマや意見対立の解消について情報収集した。データの整理・分析の結果、専門職連携の要点として、理念・基本方針の共有（相互支援、個別的なサービス、自己決定の徹底、ストレングスへの焦点化、希望の維持、ハイリスク+ハイサポート、ソーシャル・インクルージョン）、ネイバーフッドチーム（顔見知り、お互いをよく知っている）、小ミーティングとスタッフ会議の実施、チームの自律性、スタッフとメンバーの協働、各スタッフの役割（専門性）の明確化、活動の成果と評価の重視、チーム支援の利点（他スタッフからのサポート、新しいアイデア、倫理的ジレンマの解消、

メンバー間のエンパワメント、重責の分散）が明らかとなった。

#### (3)平成 25 (2013) 年度

国内の長期入院患者の退院支援に関するインタビュー調査について、精神障害者の地域生活移行・継続を促進する地域づくりにおける専門職と非専門職の連携の観点からも分析を行った。地域づくりの理念には「地域の活性化を目指し障害者と住民が共に働く仕組みをつくる」「障害者も住民も満足する精神医療福祉体制をつくる」などが含まれ、総じて「町全体が幸せになる仕組みをつくり続ける」であり、活動動機は「支え合うコミュニティの崩壊」「町の経済的疲弊」「迫りくる認知症ケアの課題」などを含み、山積する町の課題への切迫した危機感に裏打ちされていた。活動において専門・非専門職が共有していた基盤となる考え方は「理念（方向性・本質）を共有する」「方法は臨機応変に」「協働する」「専門性を尊重しつつ私個人としてつながる」などであった。NPO 活動や精神保健関連のボランティア活動など理念に直結する活動の他に、専門職は、患者が地域で生活しやすくなることを期待して自分や病院への信頼を得ること、他の専門職・他領域の人とつながること等を目的に「専門職としての役割を自覚しながら地域の活動に積極的に参加」しており、非専門職は「生活の場で専門職や患者と普通につきあう経験」をしていた。なお、専門職が専門職としての役割を自覚しながら地域活動に参加するコツには「地域活動を楽しむ」「人とのつながりを大事にする」「一住民として自然に参加する」が含まれていた。専門職の地域活動への参加を促進する要因は「やりがいや喜び」「自分も一住民として助けられている実感」などであり、非専門職が地域づくりに参加することを促進する要因は、障害者の持つ力に気づき後押しされる体験に基づく「価値の転換」「新しいことにチャレンジする可能性」であった。そして、これらの活動の基盤となる風土として「精神障害者を受け入れる地域性」「長期に亘る活動の積み重ね」があった。

平成 23 年度 - 25 年度実施の各調査の結果を比較検討し、精神科長期入院患者の退院支援における様々な信念対立を低減・解消し、患者、家族、多専門職種と効果的に連携するためのモデルを考案した。このモデルは、退院支援モデルは患者との連携、家族との連携、専門職連携の 3 本柱で構成される。患者との連携は、「患者の意思の確認・尊重」「退院支援の宣言と共に取り組む姿勢」「新しい可能性の探求」等、家族との連携は、「家族との関係構築」「家族の意思の確認・尊重」「家族の力量と可能な協力の査定」等、専門職間の連携は、連携遂行のコア要素（理念の共有、自律性と相互補完など）、障壁・困難を低減する要素（「支援上の停滞・困難への対応、コミュニケーションスキル等）、連携風

土の構築の要素(管理職者による支援、IPE等)を含むものとした。今後は、退院調整看護師や病棟看護師等から意見をもらい、更に内容の洗練をはかる予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

高橋未来, 葛谷玲子, 石川かおり: 精神科看護領域における家族看護研究の動向. 岐阜県立看護大学紀要, 14(1), 3-12, 2014.

[学会発表](計 4件)

Kaori ISHIKAWA and Yoshimi ENDO: Japanese psychiatric nurses' narratives: What kinds of difficulties do nurses experience in terms of interprofessional work for discharge support of long-term inpatients? 18<sup>th</sup> International Network for Nursing Research (NPNR) Books of Abstract, 190-191, 2012, 9月27-28日, 英国

石川かおり, 葛谷玲子, 遠藤淑美, 杉野緑: 精神科長期入院患者の退院支援において看護師が体験する専門職連携上の困難. 第5回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム, 73, 2012, 10月7-8日, 神戸

Kaori ISHIKAWA, Yoshimi ENDO, Reiko KUZUYA and Midori SUGINO: Issues related to discharge support for long-stay psychiatric patients in Japan: focused on approaches to families. 19<sup>th</sup> International Network for Nursing Research (NPNR) Books of Abstract, 166-167, 2013, 9月6-7日, 英国

石川かおり, 遠藤淑美, 葛谷玲子, 杉野緑: 精神科長期入院患者の地域生活移行支援における効果的なIPW(専門職連携)の要素. 第6回保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録・プログラム集, 71, 2013, 10月26-27日, 仙台

[図書](計 0件)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

石川 かおり (岐阜県立看護大学)  
研究者番号: 50282463

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

##### (3) 連携研究者

遠藤 淑美 (大阪大学医学研究科)  
研究者番号: 50279832

杉野 緑 (岐阜県立看護大学)  
研究者番号: 70326106

葛谷 玲子 (岐阜県立看護大学)  
研究者番号: 30598917